

メディカル・プロフェッショナルリズムVI

科目責任者 種 市 洋

学年・学期 6 学年・1 学期

I. 前 文

メディカル・プロフェッショナルリズムとは、「人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていくこと」とされています。すなわち、医師には社会から信頼され、思いやりを持って他者に接する態度などの医師に相応しい資質や能力が求められており、プロフェッショナルリズムはその最上位として医学教育モデル・コア・カリキュラムにも挙げられています。そのため、本学は6年一貫の「メディカル・プロフェッショナルリズム (D-Mep)」を令和5年度に開設しました。順次性を持って計画されたD-Mepでは、単位認定要件として「良き医師となるには」というレポート課題を各学年での単元終了後に提出してもらい、医療に対する考え方の軌跡を履修者に振り返ってもらうことも目的としています。

D-Mep VIでは、最終学年として、医療現場に出た際に直面することが予想される諸問題について学び、理解することを目指します。

II. 担当教員

福 田 宏 嗣	(副院長, 心臓・血管外科)
成 瀬 勝 彦	(産婦人科)
小 飼 貴 彦	(ゲノム診断・臨床検査医学)
千 田 雅 之	(呼吸器外科)
北 村 聖	(教育支援センター)

III. 一般学習目標

- ・ 昨今では、働き方改革が提唱され、医師も労働基準法に則って勤務し、その中で医療現場の諸問題を解決することが求められている。授業では医師の労務管理について学ぶとともに、ストレスマネジメントについても理解する。
- ・ 遺伝子解析技術の進歩に伴い、遺伝性疾患の出生前診断や発症前診断が可能となってきたが、一方で生命の選別などの倫理的問題、患者や家族に与える影響、社会的影響についても深く考慮する必要がある。授業では遺伝カウンセリングとは何か、どのような場合に実施するか、求められるスキルなどについて理解する。
- ・ 臓器移植とその前提となる脳死判定についても今後増加していくことが考えられ、脳死判定とは何か、望ましい臓器移植のあり方とは何かについても討論、検討して理解する。

IV. 学修の到達目標

- ・ 労働基準法について理解する。
- ・ 医師の労働基準について理解し、労務管理の必要性を理解する。
- ・ 労働とストレスの関係について理解する。
- ・ ストレスマネジメントの必要性とその方法について理解する。
- ・ 遺伝カウンセリングとは何かについて理解する。
- ・ 遺伝カウンセリングが必要な状況を考え、どのように実施することが望ましいか討論、理解する。また遺伝性疾患と診断された患者のケアについても理解する。
- ・ 脳死判定の実際を学び、正しい脳死判定の行い方を理解する。
- ・ 臓器移植について現場医師から学び、臓器移植の現実を理解する。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業形式 (事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。))
- 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	7	7	月	1	医師の労務管理と働き方	福 田 宏 嗣	1
2		7	月	2	医師の働き方改革について (TBL)	福 田 宏 嗣	3
3		8	火	1	遺伝性疾患への対応・ロールプレイ	小 成 飼 貴 彦 瀬 勝 彦	1,3
4		8	火	2	遺伝性疾患への対応・ロールプレイ	小 成 飼 貴 彦 瀬 勝 彦	3
5		8	火	3	遺伝性疾患への対応・ロールプレイ	小 成 飼 貴 彦 瀬 勝 彦	3
6		8	火	4	遺伝性疾患への対応・ロールプレイ	小 成 飼 貴 彦 瀬 勝 彦	3
7		9	水	1	脳死判定・脳死移植 概論	千 田 雅 之	1
8		9	水	2	脳死ドナー家族への対応・ロールプレイ	千 田 雅 之 北 村 聖	3
9		9	水	3	脳死ドナー家族への対応・ロールプレイ	千 田 雅 之 北 村 聖	3

<備考>

授業内容

第1回:「医師の労務管理と働き方」第2回:「医師の働き方改革について」

- ・現在病院で行っている労務管理や、望ましい医師の働き方、今度の働き方改革に伴う労働時間の取り扱いについて理解する。
- ・医師が受けるストレスにはどのようなものがあるか、そのマネジメントはどのように行われているかについて理解する。また医師の「働き方改革」がどのように進められているかを理解する。

第3, 4, 5, 6回「遺伝性疾患への対応, ロールプレイ」

遺伝性疾患に対する出生前診断や発症前診断について理解する。第3回の講義では特別講師の招聘も予定している。

また第4, 5, 6回の演習では院内の臨床遺伝専門医・認定遺伝カウンセラー・認定遺伝看護師が参加して、遺伝性疾患の診断や説明について学生が患者役、医師役となってロールプレイを行う。

第7回「脳死判定・脳死移植 概論」

脳死判定および脳死移植医療とはどういうものかについて理解する。またどのような流れで実施され、どういう問題点があるのかについて理解する。演習では講義を踏まえて脳死判定に至るまでのロールプレイを行う。

第8, 9回「脳死ドナー家族への対応, ロールプレイ」

臨床的脳死と考える症例が出現した際に、その家族は様々な葛藤をかかえる。脳死ドナー家族への対応について、ロールプレイを行なって理解する。

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

「医師の労務管理と働き方」「医師の働き方改革について」「遺伝性疾患への対応」「脳死判定」「脳死移植」5項目それぞれについてレポートを提出する (各20点)。これに遺伝性疾患ロールプレイの積極性, 態度, 内容についての評価 (20点) を加え、計100点満点で評価する。

Ⅶ. 教科書・参考図書・A V 資料

特に指定しない。

Ⅷ. 質問への対応方法

授業時間内に直接質問する。時間外については、担当教官に確認すること。

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医 学 知 識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨 床 能 力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能 動 的 学 修 能 力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	◎
社 会 的 視 野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人 間 性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各項目のフィードバックの方法については，講義時に担当教員より説明します。また，単位認定要件となるレポート課題である「良き医師となるには」は学生自身の学修と成長の記録としてe-ポートフォリオに記録するので，卒業時まで各自で活用してください。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：シラバスを参考に講義の要点を確認すること。（所要時間の目安 30 分）

事後学習：講義の内容をまとめること。（所要時間の目安 30 分）

なお，各基盤科目の詳細な事前学修・事後学修については，各担当教員により説明する。

XI. コアカリ記号・番号

PR-01信頼, PR-02思いやり, PR-03教養, PR-04生命倫理

RE-01リサーチマインド, RE-02既知の知, RE-03研究の実施, RE-04研究の発信, RE-05研究倫理

CS-05-01医療の質向上, CS-05-03安全管理体制, CS-05-05患者安全の配慮と促進, CS-05-06患者安全の実践